

シビル NPO 連携プラットフォーム / since2014

CONTENTS

▼土木に関わる人と活動

▽つなぐ活動

・土木コミュニティー（インフラパートナー）4：田中努

CNCP 通信

VOL.131 / 2025.3.5

■今月の土木■



●五洋建設ミュージアム正面入り口

・「御用聞き」がつなぐ、学校・地域・家庭の防災
：中野雅嗣

▼書評

・美し国への景観読本
：田中努

▼フレンズ

・五洋建設ミュージアム～企業ブランドの発信拠点、企業理念を継承する場
：今村弘文

▼事務局通信



●展示状況



●展示模型

■五洋建設グループが目指す姿

当社グループは、「良質な社会インフラ・建築物の建築こそが最大の社会貢献」と考えて、建設事業活動を行います。事業活動において、技術に裏打ちされた確かな安全と品質の提供はもちろんのこと、ESG（環境、社会、企業統治）の観点からあらゆるサステナビリティの課題に取り組むことで、臨海部と海外に強みを持つ真のグローバル・ゼネラルコントラクターとして社会の持続的発展に貢献します。

フレンズコーナーでは当社の企業ブランドの発信拠点として、また企業理念を継承する場として設置している五洋建設ミュージアムをご紹介します。

（今村弘文）

▼フレンズコーナーに続く



▼つなぐ活動

土木コミュ+ | P (インフラパートナー) 4

土木と市民社会をつなぐフォーラム&土木学会インフラパートナーG 幹事長
シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事&事務局長
(メトロ設計 取締役)

田中 努



■土木広報戦略会議

土木学会企画戦略グループのコミュニケーション部門が毎年1回「土木広報戦略会議」を開催します。会議の委員長は土木学会副会長で、産学官と多くの土木関係の協会等、計33団体の代表委員で構成されています。私もオブザーバーで参加させていただいています。

2025年1月31日の会議では、①土木学会外の団体から、国土交通省・日本建設業連合会・土木技術者女性の会・日本トンネル専門工事業協会・JR東日本・鹿島建設・竹中土木の7団体の土木広報活動が紹介され、②土木広報センターの活動と、③土木学会支部から北海道・関東・中部・関西・中国・四国の6支部の活動紹介がありました。

いずれも、ホームページやFB等で、閲覧することが出来ますが、知らない方も多いと思うので、本号で上記の①の紹介をします。

■国土交通省

●「水の日」「水の週間」にブルーライトアップ

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk1_000080.html

全国各地の施設を水を連想させるブルーにライトアップを実施した。

- ・日付：2024年8月1日～7日
- ・場所：全国171か所の施設



■日本建設業連合会

●けんせつ探検隊

小中学生および保護者を対象に現場見学会を実施。様々な会社の土木、建築現場を用意。

<https://www.nikkenren.com/entry/tankentai/2024/>

- ・主催：日本建設業連合会
- ・共催：国土交通省

●オンライン現場見学会

保護者を対象にオンライン現場見学を実施。

https://www.nikkenren.com/online_kengakukai2024/



けんせつ探検隊 2024



■土木技術者女性の会

●夏休み！ドボジョと橋を見てみよう♪inいばらき

<https://www.womencivilengineers.com/archives/9851>

- ・開催日：2024年7月31日、8月8日
- ・点検した橋（取材）：茨城県笠間市「大古山橋」・茨城県石岡市「根当橋」
- ・見学現場：国道355号東成井こ線橋
- ・参加者：小中学生計27名、保護者計21名



橋の講習会



橋の点検チャレンジ



工事現場見学会

■日本トンネル専門工事業協会

●日本トンネル専門工事業協会 現場見学・研修会

<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/node/418>

- ・開催日：2024年10月18日
- ・工事名：東海北陸自動車道 城端トンネル工事
- ・発注者：中日本高速道路(株)
- ・施工者：大成建設(株)
- ・参加者：協会会員約45名
- ・趣旨：毎年1回、現場見学会を開催。見学+研修会として、意見交換の時間を設けることで、トンネル工事業に携わる会員同士の交流を図っています。



概要説明



坑内見学



集合写真



研修会

■東日本旅客鉄道

●JR高輪ゲートウェイ駅 仮囲いを有効活用したアートウォールの展示

<https://committees.jsce.or.jp/cprcenter/node/422>

- ・展示期間：2024年11月頃～2025年2月頃（順次撤去中）
- ・きっかけ：高輪ゲートウェイシティのまち開きに向けて、「仮囲いという物理的な壁を取り払うために、仮囲いのすぐ裏で進んでいる工事写真を展示することで中の様子を想像していただき、実際に街びらきで仮囲いが撤去されると新しい街ができている」というストーリーを思い描いて企画した。



仮囲いの写真



改札前で人通りも多い場所



SNSのQRコードは効果大

■ 鹿島建設

● 鹿島サマースクール 2024～本物の建設現場を見てみよう～

7～8月に、北海道・岩手・千葉・神奈川・長野・愛知・大阪・徳島・福岡の9カ所で実施。

- ・対象：小・中学生（小学生は保護者の付き添いが必要）
- ・概要：プログラムは約2時間程度。建設業や建設工事の解説、建設現場の見学。
- ・詳細：https://www.kajima.co.jp/sustainability/social_contribution/observe/summer/index.html

<取材した現場>

- ・工事名：横浜環状南線公田笠間トンネル
- ・発注者：東日本高速道路株式会社 関東支社
- ・施工者：鹿島建設(株)・(株)竹中土木・佐藤工業(株)
横浜環状南線公田笠間トンネル工事特定建設工事共同企業体



土木の仕事とシールドの授業



ヤード見学の様子



基本測量を体験する様子



坑内キャラバンツアーの様子

■ 竹中土木

● 土木の日ポスター

<https://www.takenaka-doboku.co.jp/news/11%E6%9C%8818%E6%97%A5%E3%81%AF%E3%80%8C%E5%9C%9F%E6%9C%A8%E3%81%AE%E6%97%A5%E3%80%8D%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82/>

土木の日のポスターを作成。首都圏および関西圏の鉄道の駅約40箇所に掲示。



土木会館展示

以上

▼つなぐ活動

「御用聞き」がつなぐ、学校・地域・家庭の防災 新潟県長岡市における持続可能な防災教育体制

NPO 法人ふるさと未来創造堂/常務理事兼事務局長
中野 雅嗣



■ 1. はじめに

近年、激甚化する自然災害への対応は、地域社会全体の喫緊の課題となっています。災害から命を守るためには、一人ひとりが防災意識を高め、主体的に防災活動に参加することが重要です。

私たちは、わくわくする「防災共育」をきっかけに、地域一体での教育・共育社会の創造を目指す NPO 法人です。学校・地域・家庭共通の課題である防災・減災は、連携の必要性を実感できる題材でもあります。子どもも大人も皆で学び合う防災“共”育の推進を核に、レジリエントな人づくり・まちづくりの実現に取り組んでいます。

本稿では、新潟県長岡市における、学校・地域・家庭が連携した持続可能な防災教育体制の構築について、当法人の取り組みを紹介します。

■ 2. 事業背景

新潟県は 2015 年 2 月に小・中学校等に新潟県防災教育プログラムを配布しました。しかし、学校現場は多忙化が深刻化しており、プログラムの実施が現場の負担を増大させる可能性もありました。そこで、長岡市では市民協働の枠組みから生まれた提案を市の政策として事業化し、当法人がその事業を受託しました。

2004 年に発生した新潟県中越地震の被災地長岡市では、学校現場の負担を軽減しつつ、地域と連携した持続可能な防災教育の推進と支援体制の構築【図-1】に取り組む、現在 8 年目になります。

■ 3. 事業内容

長岡市では、以下の 5 点を中心に取り組んでいます。

- ① 行政の防災部局と教育部局とが連携し、市立全 81 小・中学校に毎年更新する防災教育教材「長岡市防災玉手箱」を設置
- ② 活動事例の情報発信と学校防災教育の相談にワンストップで対応する総合相談窓口の設置
- ③ 「御用聞き」による毎年の資料の差し替えを兼ねた学校訪問とヒアリング、防災学習支援
- ④ 「御用聞き」及び「防災共育サポーター（防災学習支援者）」の育成と活用
- ⑤ 長岡版マイ・タイムライン「わが家の防災タイムライン」など、市独自の防災教育教材の開発

活動の最大のポイントは、中学校区に配置している「御用聞き」の存在です。「御用聞き」とは、学校所在地域に詳しい方や防災士等が一定の研修を受けた後、毎年各校に設置されている教材のメンテナンスのために担当校を訪問する役割【図-2】を担います。「御用聞き」が訪問して教材の差し替えを行うことで、全校の教材を常に最新の状態に保てるだけでなく、学校の管理職や防災教育担当者とは顔を合わせる機会にもなります。その際、教材の活用方法や地域の災害リスクの紹介、防災教育に関する困りごとのヒアリングなどを行い、新任の防災教育担当者には長岡市の教材や支援体制の仕組みについても説明します。



図-1 新潟県長岡市における
持続可能な防災教育体制の概要



図-2 「御用聞き」による教材の
メンテナンスを兼ねた学校訪問

富山の薬売りをモデルにした「御用聞き」【図-3】は、「語り部ができます！」「〇〇災害の防災学習に取り組みましょう！」など、学校に防災学習を押し売りすることはありません。「御用聞き」が聞いた相談や訪問後の個別相談への対応、学習のサポートは全て当法人が主体となってい、防災学習の実施時には担当校区の御用聞きや防災共育サポーター、地域住民等を可能な限り巻き込み、皆で学校防災教育を支える活動にコーディネートしていきます。

また、訪問時に御用聞きが知り得た情報やその後のサポート履歴は、学校ごとのカルテとして整理・蓄積し、御用聞きとも情報を共有することで、学校の担当者の転出時にも取組の継続性も支えています。

■ 4. 事業効果

試行錯誤しながら積み重ねた 7 年間。支援体制の活用により、各校の地域・家庭と連携した防災教育様々な効果が見えてきました。

- 「御用聞き」の学校訪問から窓口相談につながっている。
- 中学校区全体で小・中学校が休日を授業日にし、地域と合同での防災訓練を実施する学校が増えた。
- 地域と連携した活動を通じて、地域に貢献したいと願う子どもが増加した。
- PTA 行事にて親子防災学習を行ったところ、終了後にハザードマップを理解していなかった保護者が「対策や備えを知りたい！」と殺到した。家族ぐるみで防災意識を向上させ、マンネリ化していた学校行事の改善にもつながった。
- 令和元年東日本台風接近時に、「御用聞き」による学校訪問時の助言（地域特性）が大変役立ったという声が届いた。
- 活動を通じて「御用聞き」の考え方や行動も変容した。防災士資格を保有する男性「御用聞き」は、「防災訓練・教育にもっと取り組むべき」という考えから「まずは先生と相談だ」と、防災にも詳しい「学校の理解者」へと考え方が変化した。また、「学校の理解者」として関わる保護者世代の女性「御用聞き」は、訪問を継続していく中で防災・減災を学ぶ必要性を実感し、自らの意思で防災士資格を取得した。

学校防災教育を皆で支える支援体制の構築が、連携の必要性を再認識させ、安心・安全なまちづくりのために大人も子どもも自分に何ができるかを考え、行動しようとする地域一体での防災意識の向上にもつながっています。

■ 5. おわりに

当法人のコーディネートをきっかけに、学校と人や団体が関係性を取り戻したり、新たなつながりも生まれ始めたりもしています。また、長岡市での取組を他地域の特性にチューニングし、新潟県他市への水平展開も開始しています。

学校教育が「地域とともにある学校」と「学校を核とした地域づくり」を両輪で進めていく現在の流れは、学校・地域・家庭の“共”育として防災・減災を根付かせていく絶好のタイミングだと考えています。

新潟県中越地震の被災地である長岡市における学校と地域が連携・協働して災害を知らない子どもたちへ経験をつなぎ、安心・安全で持続可能な人づくり・地域づくり・まちづくりを目指す取り組みが、同様の課題解決に取り組む自治体や団体様にとって、ほんの少しでも参考になれば幸いです。

↓さらに知りたい方はこちら

・NPO 法人ふるさと未来創造堂 <https://www.furusato-mirai.org/>

長岡市防災玉手箱 御用聞きモデルは？

富山の薬売り

富山の家庭薬行商人。ま、その行商。全国各地の得意先に薬を置き、年に一、二度訪問して使用分の代金を清算し薬を補充する。
→置き薬で、使えるものを使ってもらおう。
→使われた薬は補充、使われない薬は入れ替え。

使わなければ、損はしない。(お代がかからない。)
必要な時に、すぐに使える。(薬箱がお守りに。)
営業が一切ない。(不要なものを買われない。)

ふるさと未来創造堂

図-3 学校・地域・家庭の防災教育をつなぐ「御用聞き」とは

各校の地域・家庭と連携した防災教育様々な効果が見えてきました。



図-4 「御用聞き」や防災共育サポーターによる長岡市立の小・中学校での防災教育支援の様子

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
個別相談・行合せ	27回	47回	92回	71回	100回	97回	123回
講座実施 (講師派遣含む)	35回	69回	51回	58回	59回	71回	76回
その他(教材・資料 の提供・貸出等)	7回	30回	50回	86回	82回	87回	98回
合計	24校 69回	47校 146回	40校 193回	27校 215回	39校 241回	34校 255回	39校 297回

・防災に関しては、正直わからない。気軽に相談できて、学校にも来てくれる。ちょっとした悩みから計画づくりまで、一緒にできるのがよい。
・もやもやしていた総合の見直しや、具体的な施設活用法が分かった。
・この仕組みは他市には無い。とても良い。おかげで、無理なく子ども学校も、皆が自分事として実感できる学習ができる。
・最近では校内のみならず、家庭・地域にも少しずつ変化がみられる。
・来年も地域と中学校区全体で合同防災訓練をやりたい。等

図-5 過去7年間の長岡市立の小・中学校サポート件数と現場の声

▼書評

「美し国への景観読本」 — (特非) 美し国づくり協会 20 周年を期に —

シビルNPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長

田中 努



編著の「NPO 法人 美し国づくり協会」は、CNCP の法人会員で、協会理事の西山英勝さんは、CNCP の理事です。「美し」は「うまし」と読みます。

この本の初版発行は 2012 年ですが、今年 2025 年 1 月に法人化 20 年を迎え、美し国づくり協会 20 周年記念誌「美し国づくりの未来像」をまとめられましたので、それを機に、本書の書評を投稿します。

本書は、理事長の「序」、前江戸川区長と理事長との「対談」、理事と賛同者 22 名の「意見・論」、「我が国の景観行政の取り組みの経緯と現状」の 4 部構成になっています。

「序」は、「近代以降の東洋の知識人は、何事につけ西洋秩序を理想と考えてきたようだ。あらゆる科学技術を、西洋に学んできたのだから無理もない。」「元来、東アジアの自然風土、生物気候などに支配されてきた環境、社会、文化を、具体的には都市や農村の姿や生活のあり方までを、すっかり西洋にってしまった。」で始まります。

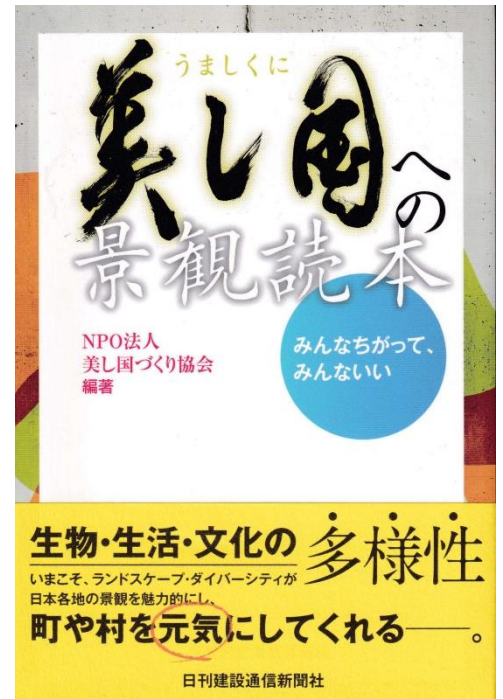
2004 年に成立した「景観法」により、全国の自治体で、色彩基準、看板撤去、電線の地中化などを叫ぶ定型的な景観問題認識が生まれ、落ち着いた景観や乱雑な景観の改良に繋がったが、住民にとって、この地こそわが町と誇れる、来訪者にとって印象深くまた訪ねたくなるような町ともなるような“個性と魅力あるまちづくり”には繋がらないだろう・・・と言います。

そもそも、「人類の祖先たちは、それぞれの自然風土の下で独自の生存環境を整備し、その究極の理想像を描き出した。」エデンの園・アルカディア・極楽浄土・桃源郷・・・等々。「これらの理想像には、共通性と普遍性が見いだせるが、同時に、自然風土、材料、技術などと民族や宗教の相違、さらに言えば独自の景観性などの個性が見いだせる。」つまり、そもそも、人類は、皆同じものを求めている訳ではなく、多様であるということでしょう。

「序」の最後では、3つの多様性が重要であると述べています。1つは自然的環境の持続のための「生物多様性」、2つめは人間の社会的環境の持続のための「生活多様性（多言語・多文化・生き方など）」、3つめは文化的環境の持続のための「景観多様性」。どこの国、どこの地方、どこの都市、どこの村も、どの家、どの庭、どのくらしも「みんなちがって、みんないい」・・・と。

現在、山本代表と CNP 賛助会員の建設会社数社と、「適疎な地域づくり」の勉強をしています。過密都市の中にも「適疎な地域」があり、過疎の村にも「適疎な地域」がある。そういう地域を探し、仲間とつながり、「適疎な地域」の普遍的なものと個性的なものを知り、「適疎な地域」を日本中に増やしていきたいと考えています。本書の「生物・生活・文化の多様性」「みんなちがって、みんないい」と、通じるものがあります。

是非、ご一読をお薦めします。



2018 年 5 月 31 日初版第 2 刷
発行 日刊建設通信新聞社
ISBN978-4-902611-44-1
定価 1200 円（税別）

▼フレンズコーナー

五洋建設ミュージアム

～企業ブランドの発信拠点、企業理念を継承する場

五洋建設株式会社
五洋建設ミュージアム企画部長

今村 弘文



■五洋建設ミュージアム

2021年に創業125周年を迎えたのを機に、「進取の精神の実践による挑戦の歴史とCSR活動の発信拠点」として、栃木県那須塩原市の技術研究所内に五洋建設ミュージアムを開設しました。2024年7月から一般公開を開始しています。当施設は、「挑戦の歴史」、「グローバル」、「技術の創造」の3つのゾーンで構成されています。入口正面には、海外進出の先駆けとなったスエズ運河改修工事で使用された浚渫船のカッターヘッドが当社のDNAである『進取の精神』の象徴とし来館者を迎えます。進取の精神で切り拓いてきた125年の軌跡に加え、未来に向けた新分野・新技術への挑戦についても体験いただけます。お近くにお出かけの際はご家族・ご友人と是非ともお立ち寄りください。

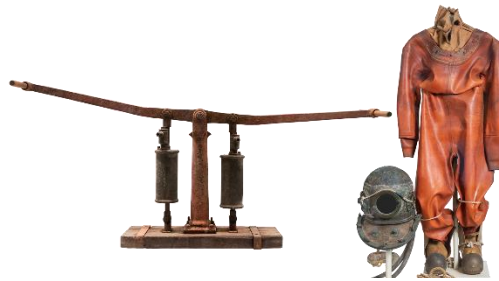


<展示例>



●水野組創設当時の作業服

当時の職人たちは、組の名前と印の入った法被、膝下丈のズボン(ニッカーボッカー)、地下足袋といういでたちで工事にあたっていた。印入りの法被は、他の組と区別するためにも重要なものだった。我が国における建設作業着の原型と言える。



●潜水用圧搾ポンプ、ヘルメット式潜水具

昭和初期、水中作業員の着用する潜水具は、スズでメッキコーティングした銅製ヘルメットを潜水衣の首部に蝶ネジで取付けるといったものであった。ヘルメットには、正面と側面に窓が設けられ、一本の空気管を通して呼吸していた。

●グローバルゾーン<スエズ>



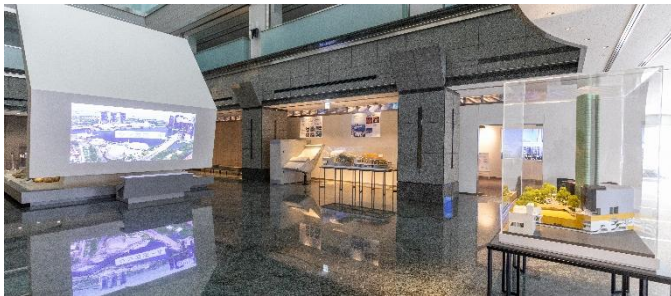
海外進出の先駆けとなったスエズ運河プロジェクトで使用された浚渫船のカッターヘッドを展示。当社の DNA である「進取の精神」の象徴として紹介しています。

●挑戦の歴史ゾーン



1896 年広島県呉市で水野組として創業し、海の土木から陸の土木、建築へ国内から海外へと業容を拡大してきた当社の歴史を紹介しています。

●グローバルゾーン<シンガポール>



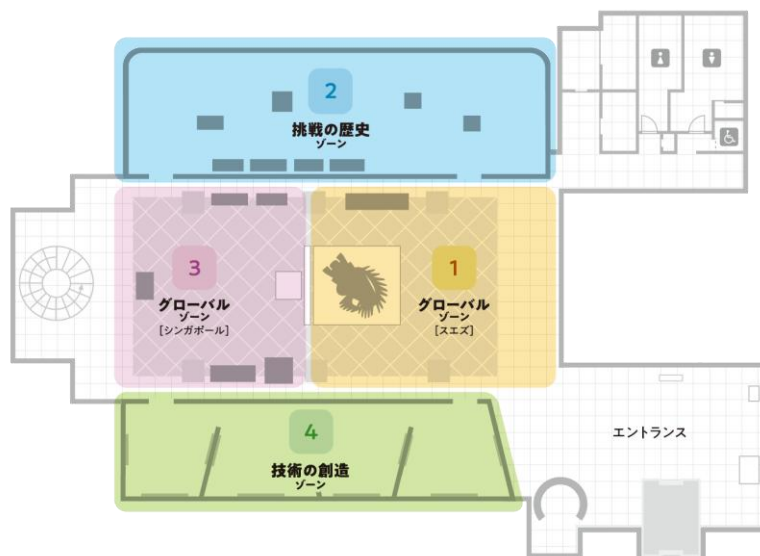
シンガポールにおける 60 年以上にわたる挑戦の軌跡を紹介。土木、建築の記憶に残る代表的なプロジェクトを紹介しています。

●技術の創造ゾーン



当社の強みである土木と建築、国内と海外の部門間連携、DX（デジタルトランスフォーメーション）、洋上風力や ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）などの未来へのイノベーション、技術革新を体験できます。

FLOOR MAP



<住所>

栃木県那須塩原市四区町 1534-1
（五洋建設株式会社 技術研究所内）

<見学のお申込み>

五洋建設ミュージアムの見学ご希望の方は、下記 WEB サイトよりお申し込みください。



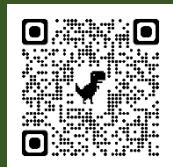
CNCP は、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です。

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷

事務局長 田中 努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cnnp.org/>



▼事務局通信

■2月の実績

●第130回経営会議

開催日・場所：2月10日（月）Zoom会議
議題：各事業の進捗／サロンの計画／理事会資料の確認

●令和6年度第2回理事会

開催日：2月25日（火）14:30～16:00 Zoom会議
議題：R6年度上期の実績と下期の計画

■3月の予定

●第131回経営会議

開催日・場所：3月11日（火）アイセイ(株)会議室
議題：各事業の進捗／サロンの計画／今後のCNCPの活動

■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員30／法人正会員9／個人正会員23／合計62

●仲間：サポーター99／フレンズ138／土木と市民社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18／合計270

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイアート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シンワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業（以上30社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCC 土木学会